

「静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会」発足式

日時：2023年3月2日（木）午後2時～

場所：アクトシティ浜松コンgresセンター31 会議室

1 開会

（司会）

定刻になりましたので、ただ今から「静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会」の発足式を始めます。

はじめに、配付資料の確認をお願いいたします。上から次第、座席表、期成同盟会の参画及び発足式の出席状況の集計表、会員及び発足式出席者の一覧、設立趣意書、期成同盟会規約に加え、参考資料として両大学の合意書と統合再編にかかるこれまでの経緯をまとめた資料をお付けしております。

それでは、本期成同盟会会長 浜松市長鈴木康友より挨拶及び発足宣言を行います。

2 会長挨拶及び発足宣言

（鈴木康友浜松市長）

皆様、こんにちは。この度、「静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会」発足式にあたりまして、関係者の皆様には、ご多用の中をご出席賜りまして、誠にありがとうございます。ごさいます。

2019年の3月29日に、静岡大学と浜松医科大学の間で機関決定を経て、大学の統合・再編に関する合意書が締結されました。これによりまして浜松地区大学は、医学・工学、情報学という日本で初めての学部構成となる、先鋭的な大学がつけられることになりました。この先鋭的な大学は言うまでもなく、人材育成の面でも教育の面でも、あるいは研究の面でも日本をリードし、そして世界と勝負できる、そういう大学になると思っております。

医工連携は、大きな世界の潮流であります。したがって、先日は東京工業大学と東京医科歯科大学が統合するという出来事がありました。残念ながら、われわれの方が先行していたわけですが、日本初はあちらに奪われることになってしまいました。

これからこの医学・工学・情報学が一緒になることによって、新しいイノベーションが次々と起こってまいります。例えば、今この医学・工学・情報学の連携の中で、乗れば乗るほど健康になる車の研究が始まっています。

どういうことかと言え、ドライバーが運転中、ドライバーの健康管理を行って、不測の事態のときにさまざまな対応ができる未来型の車でございます。高齢ドライバーの事故が大きな社会課題となっている中で、こうした車が開発されれば、日本の車の安全性は飛

躍的に向上いたします。こうしたイノベーションは、医学・工学・情報学の連携の中でしか目指すことはできません。

そして何よりも、今回のこの医工連携の大学ができることによって、県内に計り知れない波及効果をもたらすことができます。まず何と言っても、この医工連携の大学の中から、DX に強い医師、看護師、こうした医療関係者を輩出し県内全域に送り出すことができるようになります。あるいは、DX というのはこれからの世の中で必須のものでありますけれども、現職のお医者さんや看護師さんが学び直す、いわゆるリスキリングの受け皿にもなります。

そして何よりも今、医療のDX化によって医療ネットワークを強靱化するということが求められている中、静岡県においてもこれを県内全域で行っていこうと。医療のDX化によって医療の供給体制を強化し、どこにいても高度な医療サービスが受けられる。そういう体制を作っていこうという計画が進んでいます。その中核を成すのが、今回計画をされている医工連携の大学であります。だから多くの医療関係者の皆様はじめ、関係者の皆様から大きな期待が寄せられています。

しかし、残念なことに合意書締結から4年が経ちますが、計画は迷走を繰り返し頓挫をしたままであります。遅れば遅れるほど機会損失が大きくなります。私が何よりも許せないのは、すでに昨年この大学は開学しているはずでありました。多くの高校生が、この大学ができればそこで勉強してみたいという、そういう子供たちがたくさんいました。そういう子供たちの夢を壊し、修学の機会を奪い、教育の機会を奪っている。これが許せません。これを見過ごしている静岡大学の学長に猛省を促したい。1日も早くこの計画を前に進めなければなりません。

そこで多くの県内の皆様はこの趣旨をご説明し、そして理解をいただき、大きなうねりを作りたいということで、今回の期成同盟会の発足となりました。県内のすべての市長にお会いいたしました。もちろんいろいろなしがらみの中で、表に出られないという方もいらっしゃいましたけれども、この計画に異論を唱える方は1人もおりませんでした。

1日も早くこの計画を実現すべく、私たちは前進をしていきたいと思えます。そのために今日お集まりの皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご協力をいただきたいと思います。ぜひ趣旨にご賛同の上、絶大なるご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

それでは、これから設立趣意書を拝読いたします。

(設立趣意書読み上げ)

静岡大学と浜松医科大学は、2019年3月29日に「国立大学法人静岡国立大学機構設立及び大学再編に関する合意書」を締結し、新法人の設立と静岡地区大学、浜松地区大学への再編に向けて、両大学間で協議を進めています。

両大学の法人統合及び大学再編の実現によって、医学・工学・情報学が融合した学部構

成を有する大学が誕生します。この大学は、国内外の人材を受け入れ、起業家精神を持って社会課題に挑戦する人材を育成し、高度で安全な最先端医療を提供するなど、新たな価値を生み出す基盤となります。

また、地方自治体や地域企業と連携した人材育成や共同研究の展開により、強靱な地域医療体制の確立や大学発スタートアップの創業促進、イノベーション創出など、地域のさらなる発展に資するものと確信しております。

静岡大学と浜松医科大学の法人統合及び大学再編を早期に実現し、世界に冠たる教育・研究機能を持つ先鋭的な大学の創設により、従来にない新たな価値創造と先駆的人材育成を通じて、静岡県内全域に有為な人材を供給し、日本の未来に大きく貢献するため、この目的に賛同する県内の地方自治体や議会、経済団体などが一体となり「静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会」を設立するものです。

2023年3月2日

以上です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3 会員紹介

(司会)

続きまして、会員紹介をいたします。お手元の設立趣意書2ページ目、3ページ目をご覧ください。本期成同盟会にご参画いただいた自治体、議会、経済団体、関係団体などはご覧のとおりで、合計で41の団体にご参画をいただきました。

また、静岡県医師会長 紀平幸一様、静岡県病院協会会長 毛利博様、スズキ株式会社相談役 鈴木修様、株式会社ハマキョウレックス会長 大須賀正孝様につきましては、個人としてご参画をいただいております。

4 会員挨拶

(司会)

続きまして、本日発足式に出席の会員の皆様より、ご挨拶を頂戴いたします。

はじめに、浜松市議会議長 太田康隆様よりご挨拶いただきます。

太田様、よろしくお願ひいたします。

(太田康隆浜松市議会議長)

ご紹介いただきました浜松市議会議長の太田でございます。静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会の発足式にあたりまして、議会を代表して一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

市長のお話にもありましたように、静岡大学と浜松医科大学につきましては、2019年3月にそれぞれ国立大学法人が統合し再編していくという合意書が、両大学の学長によって交わされたところがございます。しかし、それから数年経過しているのですが、一向に進んでいかないということで、今回のこの期成同盟会の発足ということに相成ったというふうに思っております。

大学、われわれの時代は最高学府という言い方をしていましたが、大学の使命は、最先端の学術研究と優秀な学生を輩出していくことだと考えております。そして、全国的に国立大学の再編の動きがある中で、静岡大学と浜松医科大学のそれぞれいいところをどう伸ばしていくかということで、当時の学長さんが協議会を設立して、1年近くにわたる協議の末に合意書が締結されたと理解をしております。

しかし、これが進まない原因がどこにあるのかということも、われわれしっかりと押さえていかなくてはいけないと思ひまして、私もちょっと調べてみました。2月中旬の県知事の定例記者会見にもありましたように、もともと静岡大学の方が合意書を締結後に、静岡市に対して統合・再編をゼロベースで議論してほしいというような依頼をして、静岡大学将来構想協議会が立ち上げられて、その中で1法人2大学というものではなくて、1大学という色合いが大変濃くなった議論が進められていたということでございます。

2019年3月に合意書が締結された後、静岡市の方では翌年1月に実はこの構想協議会を設置しているのですが、そこへ当時の静大の学長が呼ばれて、大学の統合・再編に関する考え方を説明しています。しかし、構成されているこの協議会のメンバーというのは、ほとんど静岡市に関わる方たちだけで、大変心苦しい説明だったのではないかなと思います。それから6回の会議があつて、令和4年2月に発展的に静岡大学将来構想推進会議に名前を変えているということでございます。

考えてみますと、静岡大学工学部というのは、大正11年に浜松高等工業学校が設立されて、ご承知のように高柳健次郎先生をはじめ、多くの優秀なテクノクラートを輩出しているということでございますし、昨年100周年を迎えたわけです。

それから、浜松医科大学に関しましても、1974年の設立で来年50周年を迎えるということで、この浜松を基盤としまして、学術研究の大学として着実に発展をしてきた大学でございます。浜松と切り離して語ることのできない両大学でございます。したがって、この大きな流れの中で、1法人2大学にしていくということにつきましても、合意書に基づいてやっていくことに合理性があると。

したがって、静岡市の首長さんであるとか、現在の静大の学長さんがおっしゃっていることというのは、大学の自治、大学の中で決めるべきことだと言っているんだけど、先ほど申し上げましたように、2020年1月の協議会というのは、静岡市を巻き込んでそちらの動きを加速させていくようなことでありまして、これは錯誤、もしくは詭弁（きべん）だというふうに私は思うわけです。学術研究に関わる方たちが錯誤や詭弁を言っているのは、もう本当に始まらないと。しっかりとした正確な情報で前へ進めていただくことが大切だ

ろうと考えておりますので、これは指摘しておきたいと思います。

この大学の再編によりまして医工連携、これは静岡大学工学部も浜松医科大学も最先端の学術研究をやっておりますから、危機感を持って私はこの医工連携を進めていくべきだという結論を出したと思っておりますので、その新しい大学が本来の目的を達成できるように、1法人2大学としてこの合意書に基づいて進められていくべきものと思いますし、それを応援していきたいと思っておりますのでございます。

ただ、静岡市と浜松市が綱引きをしているような、そういう印象、そういうものだけは避けたい。静岡市、あるいは静岡周辺の皆さんにもしっかりと理解をいただいて、静岡県にある国立大学群のレベルを高めていくことが一番大切なことでもありますので、今回も静岡県下23市町の議会の議長様にお話を申し上げて、趣旨を理解していただいたところでございます。

お忙しい中をわれわれの考えを聞いていただきました各市町の議長様に、改めて感謝を申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、浜松商工会議所会頭 齊藤薫様よりご挨拶いただきます。

齊藤様、よろしく願いいたします。

(齊藤薫浜松商工会議所会頭)

浜松商工会議所会頭の齊藤です。今日は経済界の皆様、お集まりいただきありがとうございます。

現在、高校を卒業すると、多くの学生が首都圏を中心に県外の大学に進学し人口流出が大きい。その後、地元に戻る学生も減っています。これは当会議所で実施しているUターン就職の相談件数の減少にも表れており、若手の労働力人口の流出が続いております。

このような状況の中、両大学の統合・再編が実現すれば、非常に特徴的で魅力ある大学が誕生し、国内外の有能な学生に選ばれる世界に誇れる大学となります。経済界としても有能な若手人材が静岡県に集まり、新たな価値を創造することは、さらなる産業の活性化、発展に大いに貢献することと期待します。

本日の期成同盟会の発足が、1日も早い統合・再編につながることを祈念し、挨拶とさせていただきます。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、湖西市長 影山剛士様よりご挨拶いただきます。本日は、オンラインでの出席でございます。

影山様、よろしくお願いいたします。

(影山剛士湖西市長)

オンラインで失礼します。湖西市長の影山剛士です。どうぞよろしくお願いいたします。今本会議中で休憩をいただきましたので、会場には駆けつけられずに申し訳ございません。静岡大学・浜松医科大学の統合・再編促進期成同盟会発足式、湖西市としても賛同して参加させていただいております。

今の時代、やはり人口減少、少子化、高齢化、さまざまなこういった時代の流れを乗り越えていく、生き残っていくためには、いわゆる大学と言いますか、国立大学が昭和の時代のままで、1つの県に1つの大学だったり、教育学部とか医学部が1県に1個あって、そういった総合大学がありますよと各都道府県で言っているだけでは、生き残っていけないというふうに危機感を持っております。

この静岡県、そして遠州地域はものづくり産業が集積している地の利を生かして、この地域に人を集めていく。医学・工学・情報学の連携によって遠州地域に人が集まって来る。そしてここで人材を育成して、遠州地域から静岡県全体、さらにはグローバルに人材を輩出していくことが大事だと思っております。

ぜひこの地域に人が集まって来るようになり、そして人材がこの地域で、さらにはグローバルに輩出できるように、湖西市としてもぜひ賛同して、応援させていただきたいと思っております。どうか皆様、よろしくお願いいたします。以上です。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、富士宮市長 須藤秀忠様の代理としてご出席の、副市長 芦澤英治様よりご挨拶いただきます。

芦澤様、よろしくお願いいたします。

(芦澤英治富士宮市副市長 (市長代理))

ご紹介いただきました、富士宮市副市長の芦澤でございます。本日は、須藤秀忠富士宮市長の代理として、この発足会に出席させていただきました。

富士宮市には唯一の総合病院として富士宮市立病院がございます。この富士宮市立病院は昭和60年(1985年)に浜松医科大学の医師派遣病院となりました。以来、38年の長きにわたりまして、浜松医大から優秀な先生方を派遣していただき、市民の健康と命を守ってまいりました。富士宮市民にとりまして、最先端の医療の提供を受けられる病院が身近にあることは、何よりの安心安全でございます。

本日の期成同盟会の目的は、大学の再編を促進し、高度で安全な最先端医療の提供と先駆的な人材の育成を通じて、静岡県内全域に有為な人材を供給することとされております。

地方において医師の確保は大きな課題となっておりますが、静岡県の東部地域で生活する富士宮市民の願いと、まさに軌を一にするものでございます。

富士宮市といたしましても、新たな大学において最先端の医療技術を学び、スキルを身に付けた医師の先生方に、地域医療の担い手として活躍していただけることに大きな期待を持っております。

本日の発足式を契機として、1日も早く静岡大学・浜松医科大学の統合・再編が実現することを願い、本期成同盟会の趣旨に心からの賛同の意を表明し、富士宮市からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、三島市議会議長 川原章寛様よりご挨拶いただきます。本日はオンラインでの出席でございます。

川原様、よろしく願いいたします。

(川原章寛三島市議会議長)

皆様、改めましてこんにちは。三島市議会議長の川原章寛でございます。貴重な発言の機会をいただき、誠にありがとうございます。本期成同盟会の設立に対しまして、当事者であります大学同士の話し合いに委ねるべきとのご意見もあるようですが、あえて一言申し述べさせていただきます。

そのような配慮を否定するものではありませんが、例えば、県立高校の再編が課題とされている場合には、当然、県教育委員会や当該学校関係者は、地域の声を拝聴し対応に当たられることと存じます。本件につきましては、大学の統合・再編に関することではありますが、静岡大学ならびに浜松医科大学は国立大学法人であり、その在り方につきまして、国民の意見を踏まえることは当然であります。

両大学へは三島市をはじめ県東部の市町からも、毎年複数名の学生がその難関を突破し、現在も勉学に励んでおり、議会の立場におきましても、決して無関係とは言えません。少子高齢化や人口減少が進展する中、人材の確保・育成は地方自治体にとりまして最重要課題であり、とりわけものづくり県・静岡におきましては、技術者の育成・支援は急務であります。両大学が統合・再編することにより、これまで以上に魅力的で将来を見据えたカリキュラムの提供が可能となり、未来を担う優秀な人材が県外へ流出することなく、新たな人材をも呼び込み、研鑽を積み、社会人としてこの静岡の地で活躍してくれることと確信しております。

静岡大学におきましては、情報学部・理学部・工学部・農学部など先端技術の教育・研究が実践されており、浜松医科大学との統合・再編によりまして、医工連携や医療分野におけますDXの推進など、さらなる技術革新につながるものと考えます。

三島市におきましても、県の支援のもとファルマバレープロジェクトを推進する中、旧薬事法の認可を受けている医療関連企業等の誘致に取り組んでおり、両大学の先生方をはじめ、ゼミ生や卒業生の皆様に、そのご手腕を振るっていただきますよう、連携への強化のもと、最大限の支援をさせていただきたく存じます。

いずれにいたしましても、静岡大学と浜松医科大学が 2019 年の合意書に基づき両法人を統合し、静岡地区大学と浜松地区大学に再編することによりまして、県民の健康増進とともに、持続的な地域の発展をけん引していただけるものと期待してやみません。

以上、早期の実現を求めまして、私からの賛同意見とさせていただきます。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、浜松いわた信用金庫会長 御室健一郎様よりご挨拶いただきます。

御室様よろしく願いいたします。

(御室健一郎浜松いわた信用金庫会長)

浜松いわた信用金庫の会長 御室と申します。私、金融機関の経営をやっているのですが、その中で今、私どもが一番危機感を持っているというか、われわれ金融機関の課題となっているのは、全国の年齢の高齢化が進んで来て、企業がどんどん減っているのですね。そうした中で、地域を活性化させるために信用金庫として何をやるべきかと同時に、どう地域を活性化させていくのか。これが最大の課題だと思っております。

そうした中で、こういう期成同盟会ができて、まさにこれが日本の国のこれからの活性化のために絶対必要だと思って、今日は賛成のために参加をさせていただいたということでございます。ぜひ、大学がその地域の 1 つの人材の輩出と同時に核となって、地域の活性化を進めていただける。ぜひ統合・再編をしてそうになっていただければというふうに考えております。

当金庫の職員 1 人をアメリカ・サンフランシスコのシリコンバレーへ派遣しています。なぜ、シリコンバレーがアメリカの中の IT 産業のリーダーになったのかということの研究させるために行かせているのですけれども、あそこのスタンフォード大学というのは素晴らしい人材を輩出して、その中で成績の上位 20%は、大学を出てから独立開業するそうです。次の 20%が大企業に勤める。こういう仕組みにアメリカはなっているようで、こういうベンチャーへ挑戦する、ぜひ今回の情報・医学・工学、この 3 つを総合した先鋭的な大学をつくっていただいて、世界に冠たる、少なくとも日本で最優秀のこういう大学の在り方があるのだということ、ぜひ実現をしていただければというようにお願いしたいと思っております。

こんないいチャンスはないのですね。都市の発展のために素晴らしい今チャンスなので

す。そのチャンスを昔からの考え方とか、総合大学 1 つにしたいとか、そういう昔ながらの考え方ではいけません。都市運営、これは会社の経営と一緒に、とにかくチャンスをしっかりつかんで、将来のためにこの地域、あるいは静岡県のために、今からそういうことをしっかりやっていくということが、われわれの役目だと思っていますので、ぜひ皆様も、そういう意味でご協力いただければと思っています。どうもありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、浜松市医師会長及び浜松医科大学同窓会である松門会 会長 滝浪實様よりご挨拶いただきます。

滝浪様、よろしくお願いたします。

(滝浪實浜松医師会長/浜松医科大学同窓会 (松門会) 長)

ご紹介いただきました浜松市医師会の会長を務めております滝浪と申します。また、私は浜松医科大学の同窓会、松門会と通称されますけれども、その会の会長もさせていただいております。今日は2つの立場からお話させていただきたいと思っています。

地域医療の現場に携わる医師として、この期成同盟会に対する期待は非常に高いものがございます。医学・工学・情報学の連携による技術革新の必要性、われわれ一人ひとりがこの日進月歩する情勢で、非常に感じている次第でございます。

特にこのコロナ禍においては、この情報に関して、非常に貴重な力をわれわれは与えてもらっていると思っています。

また、これからは医学以外の知識もこの融合によって推進していかなければならないと思います。そして、こういうふうな大学で研鑽された従事者を、この地域、静岡県に輩出する。それぞれの核となって、それぞれの現場で医療のみならず、情報・工学に関して発信する源になると私は確信しています。ぜひ、そのためにこの融合を成就させていただきたいと思っています。

私事を少し申し上げます。私が小さいときに静岡大学工学部でユネスコの展示がございました。当時アポロ 13 号が月面着陸し、その姿をレーザー光線でホログラム展示していました。私はそれを見たとき非常にびっくりして感銘を受けました。その 10 年後に浜松医科大学、来年 50 周年になりますが、入学しました。入学時、うきうき、わくわくと私の気持ちは高揚しておりました。

人材育成というのは非常に大事なことだと思われているかと思いますが、若者がうきうき、わくわくする、そういう教育、修練を受けていくということは、非常に大事なことだと私は思っております。その思いを早期に実現させていただきたい。この地において修学をした学生は、きっといろいろな地域で活躍されることかと思えます。

わが同窓生 1 期生の松本吉郎先生は、昨年、日本医師会長に就任されました。いろいろ

な人材の育成は、われわれが大学に大変期待するものと思います。ぜひこの期成同盟会を機に、さらなる融合が迅速にされますことを祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

5 大学関係者挨拶

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、本日発足式にご臨席賜りました大学関係者の皆様からも、一言ご挨拶を頂戴いたします。

はじめに、静岡大学理事 副学長 川田善正様よりご挨拶いただきます。

川田様よろしくお願いいたします。

(川田善正静岡大学理事 副学長)

皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、静岡大学の川田と申します。本日は、静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会の発足式に非常に多くの方にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

浜松医科大学様と本学との統合・再編に関しまして、多くの方々の期待を直接感じる事が出来大変うれしく思いますとともに、鈴木康友浜松市長をはじめ、皆様のご支援に心より感謝申し上げます。浜松キャンパスの工学部・情報学部・電子工学研究所の3部局を代表いたしまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

浜松医科大学様と本学との統合・再編は2019年に機関決定され、両大学間で合意書が締結されました。この合意書では、浜松医科大学と静岡大学は法人統合を行うとともに、静岡地区大学と浜松地区大学に再編することを合意しております。浜松キャンパスでは、今回の再編を早期に実現し、自立した形、独立した形で大学運営を行っていくことを多くの方が望んでおります。

今回の統合・再編は先鋭的な2大学を実現するものであり、浜松キャンパスは浜松医科大学と医工情を中心にした特徴のある研究教育を実施する大学として、国内だけでなく世界中から学生、研究者が集まる世界的な知の拠点として地域に貢献できるものと考えています。

今後の少子化の課題の中で、再編を通してミッションを明確化した選ばれる大学となり、ミッションに最適な筋肉質な組織をつくる事が最も重要であると考えています。この地域に世界的な拠点が実現できれば、それは静岡県西部地域だけでなく、必ず静岡県全域の市町にも波及し、日本中に広がるものと思います。そのような確固たる拠点を作ることが、国立大学としての使命であると考えています。

私たちが目指す医・工・情に特化した先鋭化した拠点を作ることの重要性は、自然や環

境、人間性が重要視される社会に変革しつつある中で、今後ますます重要になってくるものと考えています。

例えば、工学部はこれまでものづくり技術を中心に研究・教育を行ってまいりました。今後は人に寄り添った、人を中心とした技術展開、製品開発が求められてくるということになると思います。そのような中で人に最も寄り添った学問分野である医学・看護学と工学・情報学が融合することは、新しい未来を切り開く技術開発にとって必要不可欠であると考えています。

医・工・情連携で医療機器の開発を行うだけではなく、工学分野、情報学分野のものづくり、ことづくりに、いかに医学的な知見を生かしていくかという視点が求められることになると思います。

今回の統合・再編案は、特に静岡大学の浜松キャンパスの皆さんにとって、大きく環境が変わることになり非常に大きな変革であると思います。今までの慣れ親しんだ環境を捨てて、新しい取組に果敢に挑戦し、自分たちの足で立ち上がり、未来を切り開くという覚悟を持って臨んでいます。その情熱や覚悟をご理解いただき、新しい取り組みに挑戦、チャレンジしようとしている私たちをご支援いただけることは、大変ありがたく感じており、深く感謝申し上げます。私も含め浜松キャンパスは責任を持って、世界的な研究・教育拠点を実現することを約束します。

最後に、期成同盟会の設立にご尽力いただきました鈴木康友浜松市長、期成同盟会にご参加いただきました皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、少しでも早期に皆様のご期待に応えることができますように、より一層努力してまいりたいと思います。すでに当初の予定より 2 年遅れておりますが、県の未来を担う中高生、新大学を目指す中高生のためにも、本構想を早期に実現することが、私たちの強い思いであることを改めて申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、浜松医科大学学長 今野弘之様よりご挨拶いただきます。

今野様、よろしく願いいたします。

(今野弘之浜松医科大学学長)

皆様、こんにちは。浜松医科大学の今野でございます。ご指名でございますので一言ご挨拶申し上げます。

4 年前、静岡大学と浜松医科大学は大学自治のもと、学内手続きを尽くし、正式に機関決定した上で大学再編を伴う法人統合の合意書を締結いたしました。両大学の未来を、将来を、両大学自らが決めるべきであるということは論を俟ちませんが、合意書締結の後、文科省より通知が出され、それを基に静岡市におかれましては将来構想協議会が開かれ、浜

松市でも翌年度、未来創造会議が設置されました。

浜松市の会議におかれましては、一貫して大学再編・法人統合を支持していただいております。このほど行政、市議会、商工会議所、工業会、金融界、医師会等、オール浜松に加えて、県西部地区のみならず、静岡県全域にわたる自治体等の関係者のご理解の輪が広がり、両大学で決めたことを早く実行してほしいと願う方々の声が結集し、期成同盟会が発足しましたことを、とても心強く思っております。

少子化の中で、多くの国公立を問わず、有力な総合大学はしのぎを削っております。単に学部を増やすことでは、この競争に勝ち抜くことは困難だと思っております。有力な大学は改革を進め、その大学の形、外形を変えることさえいといません。

大学入学者の減少とともに人口減も進んでおり、少子化の中、静岡県でも人口が減り続け、若者の流出が止まりません。国内外を問わず、海外からも志ある優れた若者たちに、静岡県に来ていただきたい。そのための魅力ある、選ばれる大学をつくりたいという思いをこの合意に込めています。

当時の静岡大学執行部の方々とともに、浜松医科大学は大学再編を伴う法人統合という斬新で魅力的な統合の形を構想しました。2つの大学がそれぞれの地域に拠点を構えることで、迅速な意思決定が可能となり、機動性が飛躍的に高まります。2つの大学の連携でこれまで以上に、全圏域への地域貢献が可能となると考えています。

時代はわれわれが想像しているよりも遙かに早く、大きく動いています。昨年新しい大学が設立され新入生を迎える予定でした。すでに2年、残念ながら遅れようとしています。工学と共に大学再編を目指す静岡大学浜松キャンパスの方々と共に、再編実現後の新たな大学の姿を、立ち止まることなく検討を重ねていきたいと思っております。

静岡県の未来のために、また、新しい大学を目指す中学生や高校生のために、早期の本構想の実現を心から願っていることを改めて申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

6 写真撮影

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、写真撮影を行います。報道機関の方は写真撮影の準備をお願いします。

会員の皆様におかれましては、誘導のものが案内に伺いますので、そのまましばらくお待ちください。

皆様、お並びになりましたら、マスクはお取りいただくようお願いいたします。

(写真撮影実施)

7 閉会

(司会)

皆様、本日は誠にありがとうございました。

以上をもちまして、静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会の発足式を
いたします。